



便り

天まで届け

齢八十路を過ぎたので、終活のため断捨離を始めた。行きつ戻りつ捨てきれなく、忸怩たる思いもありながら、なんとか片付いた。ついでに、永らくこと炎とも消えるともなく、まして告げる技もなく過ぎてきた胸の奥の「埋み火」も、思い切って春の霞の空に放った。身辺整理が終わった今、体の中を風が通り過ぎていく。(名華女)

正月明けに父を看取りました。個性的な父との関係に、心迷うこともありましたが、最後は「ありがとう」と伝え、心穏やかに「天まで昇れ〜」と見送ることができました。(すみちゃん)

外出自粛で無駄な買い物をしないからといってお金が貯まるわけではない。仕事が減り収入は減るけどストレスは貯まる。運動不足でカラダの余分な肉は増すばかり。神様!この溜まった不要物を吸い上げ、ウイルスから解放してください。私の願い、天まで届け。(しば)

某国初の副大統領になった女性が、「ガラスの天井を破った」と言われている。この人には「女性」だけではなく「人種」の



No.59



天井もあつたはず。ガラスの天井に感じる高さも厚さも、人それぞれ違うんだらうけど、遠くない未来には、努力する全ての人の願いが「ガラスの天井」に阻まれることなく、天に届く世の中になっているといいなあ。(チャーミー)

最近のシャボン玉はすごい。割れない、食べれる、大量放出。子どもの頃に抱いた夢を叶えるために頑張っている同輩がいるのでしよう。楽しませていただいていることに感謝しながら、基本のシャボン玉に我が子の笑顔を写しながら、天まで届けと送り出す。(俺)

△ハモン博士のまとめ

天とは、空でもありそのもつと上を指す言葉でもある。そこまで届いて欲しいと思うことは色々あるんじゃないが、気分を上げるにしても、何かを願うにしても、まずは、上を向くことじゃ。顔を上げ、天を仰ぐと晴れやかな気分になってこんかの。ただし、首が痛い人は無理は禁物じゃよ。(笑)



問合せ
大口町NPO登録団体ハモン
☎95-1691

Be Ambitious vol.321

町内にお住まいの
20代の皆さんがリレーで登場!

人と関わるのが好き

舟橋 令華さん(上小口) H88・9月生



憧れだった客室乗務員に

小学1年生の時に家族旅行で海外に行った際、初めて出会ったCAさんがかっこよくて、それから漠然と憧れを抱いていました。大学時代に自分に合う仕事を見極めるために、いくつかアルバイトを。その中で、人と関わるのが好きだなと実感しこの道へ進むことに。現在は憧れだった客室乗務員となり2年目。国内を飛び回っています。

私たちは日々、たくさんの方と接していますが、お客様にとつては特別な一日だったりもします。大切なひと時を笑顔で快適に過ごして頂けるよう、お客さま一人ひとりのニーズを汲み取り、対応できるように心掛けています。現在の目標は、チーフパー

サーの資格を取る事。厳しい訓練と一緒に頑張ってきた同期と励まし合ったり、尊敬する先輩方からのアドバイスを参考にしたり、勉強の日々です! 留学で得たもの

大学時代に、中国の青海省に1か月、アメリカのアリゾナ州に7か月、語学留学をしました。どちらにも共通しているのは雄大な大自然と、さまざまな人種が共存していること。青海省には、チベットやモンゴルの人も多く、お互いの文化を尊重し、調和がとれている暮らしが新鮮でした。アリゾナではセネガル出身の子と同居。生活習慣や国民性の違いに驚く事も多く、貴重な経験になりました。



▲アリゾナでスカイダイビング!